

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	〒078-8234 北海道旭川市豊岡4条6丁目4番27号 (電話) 0166-38-6121		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年4月8日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	32 人	常勤 9人, 非常勤 23人, 常勤換算	5.98人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート鉄骨 造り		
	2 階建ての	2	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	20,000~26,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	7 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 60 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団整形外科進藤病院 梅津歯科クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、昨年思いを新たに、基本理念に地域密着型サービスとしての内容を盛り込み、「住み慣れた地域の中で」利用者の「意思」と「人格」を尊重した「家庭」的な生活の支援を掲げ、日々実践に向け取り組んでいる。また、デイサービスセンター、小規模多機能型事業所等を併設しており、施設長の長年にわたる福祉事業での経験を十分に活かしている。夏の「朝市」、事業所を開放した手芸教室の開催や、ボランティアとの外食など、地域とも深く交流している。管理者はじめ全職員は、「利用者主体のケア」との思いを共有しており、利用者は、和やかで明るい笑い声にあふれた家族的な雰囲気の中で暮らしている。さらに、職員は良好な信頼関係を築き、共助を自然な形でっており、利用者への何気ない配慮が行き届いた、温かみのある事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善項目であった、理念の再考、広報紙づくり、職員の外部研修参加、同業者との交流等、全てについて、職員全員で検討を行い、改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員は評価の意義や目的を理解している。自己評価は、管理者が取りまとめて、他の職員に提示し意見を求め、疑問や問いかけには説明を行っており、今後のケアに活かすよう取り組んでいる。さらに、今回の外部評価後にも、職員全員による検討を予定している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族会代表、町内会長、民生委員、社会福祉士、職員等を構成員とし、3ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の活動報告や内容説明、意見交換を行っており、事業所運営に活かしている。また、研修や勉強会には積極的に参加し、同業者やケアマネジャーと情報交換を行うなど、ネットワークづくりをとおり、サービスの質の向上に活かすよう努めている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は、日ごろから家族と交流を図り、気軽に意見、要望等を伝えられる雰囲気づくりに努めている。また、要望の内容は、直ちに検討し、希望に沿った対応を行っている。家族の来訪時には、利用者の日常の様子や受診後の報告、経過を細かく伝えるとともに、請求書や金銭納納についても毎月報告し、確認を得ている。同法人全体の広報紙「あさがお」を今年度に初回発行し、好評を得ている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 全職員が地域に根ざす大切さを認識しており、地域になじんだ生活づくりに努めている。また、町内会に加入し、積極的に行事に参加するとともに、朝市や、事業所ホールを開放した様々な教室の開催等、地域との関係、協力体制も構築している。さらに、利用者のために、各種教室等の多彩な催しも用意しており、利用者が自己決定により楽しみごとを見つけ、気晴らしとなるよう支援している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、「住み慣れた地域の中」で「家庭生活」に近い生活、「意思」と「人格」を尊重された「自立的」な生活を送るための支援をうたった、新たな理念を職員とともに作成し、事業所の要所に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長、管理者は、常にミーティングや会議、日々の申し送り等をおして職員と理念を共有し、理念の意味を認識しながら、利用者への支援に努めるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	全職員が地域に根ざす大切さを認識しており、地域となじんだ生活づくりに努めている。町内会に加入し、積極的に行事に参加するとともに、朝市や、事業所ホールを開放した様々な教室の開催等、地域との関係、協力体制も構築している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、評価の意義や目的を理解している。自己評価は、管理者が取りまとめ、他の職員に提示して意見を求め、疑問や問いかけには説明を行うなど、今後のケアに活かすよう取り組んでいる。さらに、今回の外部評価後にも検討を予定している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族会代表、町内会長、民生委員、社会福祉士、職員等を構成員とし、3ヶ月に1度開催している。会議では、事業所の活動報告や内容説明、意見交換も行い、事業所運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、疑問点について問い合わせを行うとともに、市主催の研修会に積極的に参加している。また、地域包括支援センターへ相談したり、同業者と情報交換をするなど、関わりを大切にしながら、サービスの質の向上を目指している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、職員は、利用者の日常の様子や受診後の報告、経過について細かく伝えている。また、請求書や金銭出納についても毎月報告し、家族等から確認をもらっている。さらに、同法人全体の機関紙を今年度に初回発行している。	○	同法人全体の「あさがお」だよりを発行し、利用者や家族から好評を得ている。今後はさらに、利用者一人ひとりの暮らしぶりや近況を伝える、事業所独自のたより等を、毎月送付するよう検討するなど、家族との信頼関係を深め安心につながるような工夫が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、日ごろから家族との交流を図り、家族が気軽に意見、要望等を伝えられる雰囲気づくりに努めている。また、要望の内容については直ちに検討し、希望に沿った対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職は、最小限に抑えるよう努力している。また、職員が交代する場合は、日常生活の中で利用者と顔なじみになるよう工夫し、ダメージを防ぐ配慮を行うなど、体制を整えている。なお、現在は異動も離職もなく、安定した環境である。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長、管理者は、人材育成の重要性を認識しており、年間を通じた研修計画を立てている。また、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも、交替で多数参加しており、参加後は職員間で報告しあい、共有化を図っている。さらに、資格取得のための資金援助も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修や勉強会の案内が多数あり、職員は積極的に参加している。また、同業者やケアマネジャーと情報交換を行い、ネットワークづくりをとおして、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、職員が自宅を訪問したり、入院中の本人や家族と面談し、詳しく説明を行っている。その後、事業所に見学に来てもらい、職員と顔なじみになり、事業所の雰囲気にもなじむよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援を行っている。また、利用者から生活の知恵や料理の味付け、編み物等を教わったり、昔話で励まされるなどしながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自のアセスメントシートを活用し、利用開始時に、利用者の生活歴、心身の状況等の情報を収集し把握している。また、利用開始後も、ケアチェック表に細かく記入しながら、利用者本位のケアに取り組むよう、情報の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、基本的に6ヶ月ごとに計画書を作成している。また、3ヶ月に1度、モニタリングを行い、職員全員で介護計画を検討している。さらに、日々の記録に家族の要望や利用者の思いを書きとめ、要望に沿った介護計画となるよう、職員で話し合いながら作成している。	○	職員は、計画見直しやモニタリング時期に合わせ、日常生活の様子や変化について意見交換を行っている。しかし、利用者の介護計画の目標に対して、日常の記録を連動して記載する仕組みにするまでには至っていない。今後は、効果的な評価ができるように記載方法の検討が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の評価を行っている。アセスメント記録、日常経過記録を基にカンファレンスを行い、検討している。また、利用者の状態変化に伴い話し合い、修正や新たな介護計画の作成を行っており、作成後は、利用者・家族に説明を行い確認も得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所所有の車で、通院時の送迎、ドライブ、必要品の買い物、一時帰省など、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また、主治医からの利用者の他科受診についての依頼にも適切に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は、利用者の希望する医療機関へ、定期的に同行受診している。利用者の状態を報告し、受診結果の聞き取りを行って、家族に毎回報告している。また、必要時には家族と一緒に受診や、往診にも対応するなど、適切な医療が受けられる支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書、契約書等に、看取りに関する指針や、緊急時の対応を記載しており、関係医療機関と連携して、重度化、終末期への対応体制を整備している。さらに、ターミナルケアに関しても積極的に方向性を提示するとともに、ベテランのスタッフが窓口となるなど、家族への安心に繋がっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけている。個人情報、各種書類の保管、管理、使用説明への同意についても、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、理念にある、利用者の「人格」「意思」を尊重した「自立的」な生活を、強制することなく一人ひとりのペースを大切にしながら支援している。就寝時間や食事時間の自由、趣味や嗜好、生活歴を大切に、その人らしい生活を送るよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットごとに、利用者の好みや希望を採り入れたメニューを作成している。また、食事の準備、下ごしらえ、後片付け等も一緒に、すべてが手づくりの食事内容で、食事が楽しみの一つとなるような支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴を基本とし、利用者の希望に応じ、楽しみながら入浴できるよう支援している。必要に応じ、シャワー浴や清拭も、さりげない声かけをしながら行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の食事の準備や後片付け、花壇や野菜づくり、カラオケ、地域住民との外食、事業所ホールでの各種教室等、多彩な催しを用意しており、利用者一人ひとりが自己決定により楽しみごとを見つけ、気晴らしとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品の買い物、周辺の散歩、外食、朝市参加等、外出支援を積極的に行っている。また、近隣へのドライブで、季節を感じるなどの支援も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。利用者に外出する様子が見られる時は、さりげなく声かけをし、利用者の安全面に配慮しながら一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急マニュアルを整備するとともに、年2回、消防等の協力の下、利用者とともに訓練を行っている。また、救急救命蘇生法、AED訓練も、看護師の指導により行っており、緊急時、災害時の対策に努めている。さらに、緊急時に地域からの協力を得るような関係づくりにも取り組んでいる。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分摂取量を個別に記録しており、職員は情報を共有しながら利用者の体調管理を行っている。また、管理栄養士によるメニューの確認や、利用者の身体状況や病状に合わせた食事内容の支援も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、天窓により明るく開放的であるとともに、ソファや椅子を多く設置しており、利用者は、思い思いの場所で過ごしている。また、季節を感じる装飾を施すなど、利用者にとって快適な居場所づくりに配慮している。臭い、光、温度、湿度等も適宜調節しており、一日を過ごす憩いの場となるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が使い慣れた家具やベッド、寝具を持ち込んでおり、本人が安心して暮らせる工夫をしている。また、写真等を飾り、今までの生活と変わることなく、精神的負担を軽減する配慮をしている。		

※  は、重点項目。